マイクロマグネティックス(微細領域の磁性とデバイス応用)

九州大学大学院 システム情報科学研究院 電子デバイス工学部門

松山公秀

講演概要

- 1. 磁区、磁壁
- マイクロマグネティクスの理論
 平衡条件、ダイナミクス(LLG方程式)
- 計算機シミュレーション
 シミュレーション手法・・・有限差分法
- 4. 微細領域の磁性とデバイス応用 磁壁微細構造、薄膜パターン(MRAM) 微粒子、磁気記録媒体 保磁力機構

















 \otimes





マイクロマグネティクス

磁気モーメント方向の遷移領域を扱える程度にミクロな 視点での磁気現象の解析手法

1935 Landau-Lifshitz: 磁区構造解析 1962 W. F. Brown "Micromagnetics"



 1)静的エネルギー平衡条件 磁気エネルギーの定式化
 エネルギー変分問題
 一静磁エネルギー 反磁界エネルギー

2) ダイナミクス

磁化の運動方程式 Landau-Lifshitz-Gilbert (LLG)方程式

磁気エネルギーの定式化



2) 磁気異方性エネルギー $e_{an} = f(m_x, m_y, m_z) = K_u(1 - m_x^2)$ $K_u: - 軸磁気異方性定数$

3) 静磁エネルギー

$$e_m = -1/2M \bullet H_d - M \bullet H_{ext}$$

反磁界項 ゼーマン項

静的エネルギー平衡条件

自由エネルギー $G = \int (e_{exch} + e_{an} + e_m) dv$ € 交換 異方性 静磁 G: 磁化ベクトルM(x,y,z)の汎関数, v: 磁性体の体積 Gの極小値を与える**M**(x,y,z) がエネルギー平衡状態 · 変分問題∶ 拘束条件 |**M**| = const. $\frac{\delta(e+\lambda M^2)}{\delta M} = 0 \qquad \implies -\frac{\delta e}{\delta M} = \lambda M$ *H*_{aff}: 等価磁界 λ: 未定係数 **M** // **H**_{eff} $M + \delta M$ θ 極座標表示 $\frac{\delta e}{\delta \theta} = 0 \qquad \frac{\delta e}{\delta \phi} = 0$ Ø







磁界による磁化の才差運動

Landau-Lifshitz-Gilbert (LLG) 方程式







LLG方程式による磁壁動特性解析



磁壁エネルギー G $G = \int \{A(\frac{d\theta}{dx})^{2} + K\sin^{2}\theta + 2\pi M^{2}\sin^{2}\theta\sin^{2}\phi - MH\cos\theta\}dx$ 東方性エネルギー 反磁界エネルギー ゼーマンエネルギー LLG方程式 (極座標表示) d /dt = -(/M sin)/(e/) - sin (d /dt) d /dt = (/M sin)/(e/) - /sin (d /dt) : 磁壁位置 : 磁壁運動量 (共役変数)

磁壁の質量 $(2\pi \gamma^2 \sqrt{A/K})^{-1}$ Fe: 1.4 × 10⁻¹¹ [kg/m²]







スピン偏極した電流により直接トルクを与える



熱揺らぎ効果

磁化への熱揺らぎの影響をランダム磁界により模擬



$$H_{th} = \sqrt{\frac{2\alpha k_B T}{\gamma M(\Delta V)(\Delta t)}}$$

k_BT: 熱エネルギー
 α: ダンピング定数
 γ: ジャイロ磁気定数
 Δt: 時間ステップ
 ΔV:体積要素

マイクロマグネティクス解析手法

1) Raileigh-Ritz法 磁化分布状態をパラメータを含む関数で表現 パラメータに関してエネルギーを最小化



3) 有限要素法



有限差分法による数値計算

LLG方程式
$$\frac{dM}{dt} = -\gamma M \times H_{eff} + \frac{\alpha}{|M|} M \times \frac{dM}{dt}$$

等価磁界 =
愛加 等価磁界 =
磁気エネルギーの磁化に関する変分
異方性等価磁界 $H_{an} = -\delta ((Ku(1-m_x^2))/\delta m)/M = (2K_u/M)m_x \leftarrow K_u \to x$
交換等価磁界 $H_{exch} = -(\delta (A(\nabla m)^2)/\delta m)/M = (2A/M)/(\nabla^2 m)$



講演概要

- 1. 磁区、磁壁
- マイクロマグネティクスの理論
 平衡条件、ダイナミクス(LLG方程式)
- 計算機シミュレーション
 シミュレーション手法・・・・有限差分法
- 4. 微細領域の磁性とデバイス応用 磁壁微細構造、薄膜パターン(MRAM) 微粒子、磁気記録媒体 保磁力機構

面内磁化膜中の非対称ブロッホ磁壁



A.E. Labonte, 1969



ボルテックス磁化構造による膜厚方向の反磁界低減





磁性細線中の対向磁壁



対向磁壁の磁化分布状態

MFM観察とマイクロマグネティックスシミュレーションの比較



磁壁の制御とデバイス応用



講演概要

- 1. 磁区、磁壁
- マイクロマグネティクスの理論
 平衡条件、ダイナミクス(LLG方程式)
- 計算機シミュレーション
 シミュレーション手法・・・・有限差分法
- 4. 微細領域の磁性とデバイス応用 磁壁微細構造、薄膜パターン(MRAM) 微粒子、磁気記録媒体 保磁力機構



磁性薄膜パターン



$10 \times 5 \mu m$







MRAM動作シミュレーション



記憶セルパターン形状 こ L × w × t
パターン幅 w : 0.05 μm ~ 0.5 μm
形状比 <i>L/w</i> : 1.0 ~ 1.5
膜厚 <i>t</i> : 1 nm ~ 6 nm
<mark>ビット線形状 :</mark> 断面形状 : w × 0.3 μm
セルとのスペーシング : 0.05 μm
<mark>ディジット線形状</mark>
断面形状 : <i>L</i> × 0.4 μm
セルとのスペーシング : 0.15 μm

Landau-Lifshitz-Gilbert 方程式の数値計算

直交導体電流磁界による MRAMセルのスイッチング特性解析

直交導体電流磁界によるMRAM記憶セルの磁化反転過程

 $(w = 0.1 \ \mu m, \ L/w = 1.5, \ t = 3 \ nm)$





磁化反転モードは、一斉磁化回転型に近い。



スイッチング電流および熱安定性指標のセル幅・膜厚依存性





w=0.1 µm, *L/w*=1.5 (0.8 Gbit/cm²相当)で 熱安定性指標: △*E*>80*k*_B*T*を満たす条件

 $t > 3.5 \text{ nm} \implies I_w = 12 \text{ mA}$

講演概要

- 1. 磁区、磁壁
- マイクロマグネティクスの理論
 平衡条件、ダイナミクス(LLG方程式)
- 計算機シミュレーション
 シミュレーション手法・・・・有限差分法
- 4. 微細領域の磁性とデバイス応用 磁壁微細構造、薄膜パターン(MRAM) 微粒子、磁気記録媒体 保磁力機構





D.R. Fredkin et al. 1989





CoナノワイヤのAFM, MFM像



Co ナノワイヤの磁化反転特性





磁壁抗磁力



磁化反転核発生磁界



熱アシストによる低電力スピン制御



降温時の磁化オーダリング過程







まとめ

- 1. 磁区: 単磁区, 多磁区(静磁エネルギー低減) 磁壁: ブロッホ磁壁,ネール磁壁,枕木磁壁
- 2. マイクロマグネティクス

平衡条件: ∑(交換エネルギー,異方性エネルギー,静磁エネルギー) └→最小化:変分問題

3. 計算機シミュレーション

有限差分法: 時間差分,空間差分 ⇒ 放物型偏微分方程式

4. 微細領域の磁性とデバイス応用

磁壁微細構造: 非対称ブロッホ磁壁、ツイスト磁壁,対向磁壁 微小磁性体: 軟磁性薄膜パターン,MRAM記憶セル,微粒子磁化反転モード 磁気記録媒体: 磁化回転モード,磁化遷移領域

5.保磁力機構:磁壁ピニング型,磁化反転核形成型